

令和6年度 第2回美術館協議会

1 日時 令和6年12月18日(水) 10:00~12:00

2 開催場所 みき歴史資料館 3階講座室

3 議題

(1) 報告事項

ア 令和6年度 前期事業実施状況

① 入館者数

② 企画展別入館者数

イ 令和6年度 後期事業活動計画

(2) 協議事項

ア 令和7年度 展示事業計画(案)

イ 令和7年度 事業活動計画(案)

(3) その他

4 出席者

(1) 委員 山下泰生会長、石田満美副会長、藤原義明、岩本充洋校長

米村 環、高谷美貴子

(2) 事務局 森田教育総務部長、手島文化・スポーツ課長、石田文化・スポーツ課長補佐

平川美術館館長、向山美術館専門員、和田美術館事務補助員

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人の数 0人

7 会議内容

1 開会

-事務局報告-(1)報告事項

ア 令和6年度 前期事業実施状況

① 入館者数

② 企画展別入館者数

イ 令和6年度 後期事業活動計画

事務局：配布した紙資料とパワーポイントの映像を使って説明

令和6年度前期事業実施状況を報告する。

令和6年度の4月から11月までの入館者数は6409人で、令和5年度の同月の6851に対して減少した。主な要因は令和5年度に開催した池内悦子氏、雲丹亀利彦氏の展示会で来館者が多かったことが大きい。12月の現在開催中の第49回グループしづがき展は12月17日の時点で663人の来館者で前年並みだ。

木版画展は6月29日から7月21日までの会期で入館者数は981人だった。会期中の7月5日、6日、7日、12日、13日、14日に森口朝光氏による刷った作品を木板に貼って持ち帰れる刷り体験のワークショップを行った。このワークショップは非常に好評で木版画の根強い人気を確認できた。

第4回アート・ティーン公募展は8月3日から8月18日までの会期で入館者数は702人だった。応募者数は132名、その内、絵画101名、木彫31名で、前年応募者数が105名に対して増加した。しかし、入館者数が伴わないのが課題だ。入賞17作品、入選77作品を展示した。絵画の最優秀作品「時間と存在」はナメラ商店街を描いたもので神戸新聞に写真が掲載されたことで地元の市民の来館に繋がり、若者が捉えた三木の街を見ることができて嬉しいとの声があった。木彫の最優秀作品「廻れる歯車」は高校一年生が大作に取組んだことが評価された。表彰式は入賞者が多かった三木東高等学校美術部の合宿の期間と重なった為、参加者が少なかった。

上田桑鳩展は8月30日から9月29日までの会期で入館者数は748人だった。公森仁氏、藤原常貴氏に展示指導を仰いだ。公森氏、森川桂石氏の神戸新聞に掲載された上田桑鳩に関する記事を貼りだしたところ、そのコピーなども含め桑鳩に関する書籍などの閲覧を求める声を多くもらった。来年度は館内に桑鳩の書籍コーナーを作ろうと考えている。市制70周年特別事業として書道団体奎星会中原志軒会長による「特別講演上田桑鳩の魅力」は大盛況で参加者は110人だった。引き続いて行った中原氏、書道団体飛雲会牛丸好一会長、森川氏によるギャラリートークも盛況で、参加者は92人だった。また、市制70周年記念事業として、森川氏の指導により図録「上田桑鳩」を作成、期間中80冊を販売した。合わせて1冊目も18冊販売した。上田桑鳩展は3年連続で行った。令和4年度は会期中の開館日が55日、入館料は無料で入館者数は1953人だった。令和5年度は開館日が37日、有料で入館者数が887人、令和6年度は開館日が27日、有料で入館者数が748人だった。

第4回INGひょうご展は10月10日から11月5日までの会期で入館者数は1312人だった。日展院展で活躍する知名度の高い兵庫県の作家グループであったこと、共同開催した森の風美術館と堀光美術館を回って、作家から提供された景品が得られるスタンプラリーを行ったことで来館者数は伸び、2100人と過去最高だった。森の風美術館とは今後もスタンプラリーで協力し合うことを話し合っている。

委員：入館者数は市内からと市外からののに分類できるか。

事務局：アンケートに記入があるものののみ統計を取っている。

委員：市内からはどれくらいか。

事務局：市外より少ない。

委員：それが課題だ。

事務局：三木市在住の作家が多い展覧会は市内からの来館者が多いが、それ以外の展示の場合は市外、県外からの来館者の方が多い傾向がある。市外や県外から来館していただけることも喜ばしいことではあるが、市内からも多くの方に来館していただけるようなアピール方法を検討する必要がある

事務局：今年度後期事業計画を報告する。

第49回グループしぶがき展は12月6日から12月22日まで開催する。2階では松山順三氏の作品を特集展示する。

書の二人展「市田山 知／井関 春龍 書とアートの融合」は1月11日から2月2日まで開催する。三木市美術協会書道部会員の両氏による書と水墨画を展示する。会期中にワークショップとパフォーマンスを予定している。

「残された書の響き 三木市ゆかりの書家 上田桑鳩の弟子三人展」は2月8日から2月24日まで開催する。上羅芝山氏、神澤知丘氏、高郷石峯氏の作品を展示し、2月9日に飛雲会の牛丸氏、三木市美術協会の公森氏によるギャラリートークを行う。

丹波×三木合同作品展は3月1日から3月30日まで開催する。会期を前期後期に分けて、丹波市美術作家協会23名、三木市美術協会40名の作家の作品を展示する。会期中にギャラリートークを予定している。

事務局：前出のワークショップ等の報告をする。

木版画の刷り体験では、豊池小学校4・5年の23人の参加もあった。作家からの作品説明も行った。

アーテ・ティーン公募展の期間中に藤原義明氏による「陶芸教室はにわを作ろう」を実施した。子供から年配者まで4日間で45名が参加し好評を得た。

ING ひょうご展の期間中に出演作家の椿野浩二氏による「プラバンで作ろうキーホルダー」を実施した。また、申込者が描いている作品を持ち込んで行う作品制作指導を洋画の井澤幸三氏、日本画の久米伴香氏に行ってもらい、受講者に好評を得た。加えて、教育センターから来た11名の子供に対して、花房完昇氏がブローチを作るワークショップを行った。また、三木東中学校美術部の依頼で、花房氏の出張による美術指導も実施した。

企画展のない11月、初めて堀光美術館芸術講座を開催した。森川氏による書道教室は毎週土曜日4回全てに参加できる7名の受講だった。野口雅史氏による「鉛筆画教室モノクロの表現を学ぶ」は毎週日曜日4回の内、参加日自由の形で行い、71名の受講者だった。毎年このような講座の要望があるので、来年度も検討する。

副会長：三木東中学校の参加者は何人だったか。

事務局：美術部は35名ほどいるが、部活動をかけもちしている生徒もあり、それよりも少なかった。美術の教師からいつもと違う指導者からのアドバイスが欲しいとのことだった。

委員：講演会、ギャラリートーク、芸術講座などの参加者からアンケートをとっているか。

事務局：希望者からはとっている。

委員：美術館で開催しているイベントの参加者は特に美術に関心が高い方が多いと思われるので、いただいた意見を参考にしてほしい。

-事務局報告-(2)協議事項

ア 令和7年度 展示事業計画(案)

イ 令和7年度 事業活動計画(案)

事務局：堀光コレクション展-語りかけるアートたちⅡ-は4月5日から4月20日までの会期で、立体作品を中心に三木市ゆかりの作家の作品も展示する。

三木市美術協会 書・日本画部会展は4月26日から5月11日まで開催する。

玉田尚之写真展は5月24日から6月22日までの会期で、植物や動物の写真を和紙にプリントした作品をする。

版画展は6月28日から7月21日まで開催する。従来、木版画展としていたが、実際はシルクスクリーンなどの他の手法の作品もあったので間口を広げた。

第5回アート・ティーン公募展は8月3日から8月17日まで開催する。今年度よりもPR活動を行い応募者数、展示数を増やしていきたい。

きらきらアート展は9月2日から9月28日まで開催する。書道だけではなく他の作品も展示していこうと考えている。きらきら書道が25周年を迎え、国や兵庫県が障がい者アートに力を入れ、三木芸術文化会議も分け隔てない会員募集、作品展示をしているなどの流れに沿う企画だ。

特別企画展 彫刻家 西村公泉展は10月11日から11月9日まで開催する。西村氏は、仏師、仏像修理師である西村公朝氏の長男だ。

第50回グループしぶがき展は12月6日から12月21日まで開催する。

三木市美術協会個展枠として1月10日から2月1日までを予定している。彫塑工芸部会

員の作品の展示を考えている。

2月14日から3月15日までは、第1回美術館協議会時には COZY FACTORY の展示を予定していたが、先方と日程が合わず、現在空白だ。計画が出来次第報告する。

鬼展は3月28日から4月19日まで開催する。三木市に伝わる鬼追いや鬼の伝説、美術館所蔵の鬼に関係する作品、様々な作家の解釈による鬼の作品などの展示を予定している。また、市史編纂室に鬼の情報があると聞いており、共同開催などで協力を仰ぐ。

事業活動計画としては、玉田尚之写真展では、玉田氏による写真教室と撮影会を行う。

版画展では、森口氏による刷り体験に加え、一板彫りのワークショップを検討中だ。

アート・ティーン公募展の間に東清泰子氏によるゴムハンコ作りを行う。また、藤原氏による陶芸での印鑑（陶印）作成も予定している。

西村公泉展では西村氏による講演会とギャラリートークを予定している。

きらきらアート展の時期に、INGひょうごの花房完昇氏が森の風美術館で個展を開催するのに合わせ、森の風美術館と堀光美術館でスタンプラリーを行う。きらきらアート展ではワークショップ、ギャラリートークなど予定している。

芸術講座は、今年度の参加者や参加希望者から週1回4週連続は参加しにくいとの声があったことを受け、月1回年12回というサイクルで日本画、木版画、鉛筆画、書の講座を検討している。

委員：芸術講座で作った作品を美術館で展示する予定はあるか。

事務局：芸術講座の募集で作品の美術館での展示を謳っており、年度末に行う予定だ。

委員：自分の作品を美術館に展示する機会は滅多にないので受講希望者が増えると思う。

事務局：年度末の企画展が鬼展なので、スペースを作って受講者の作品を展示する。

委員：芸術講座は1年間月1回で12回全てに参加しなければならないのか。

事務局：途中からの参加や1回だけの参加でも問題ない。

会長：資料に第2日曜日とあるが、その日に日本画、木版画、鉛筆画、書の全部を行うのか。

事務局：いいえ、講師との調整次第で他の週になる可能性がある。

副会長：これらの講座の開講の周知はどのように行っているのか。

事務局：今年度の芸術講座ではホームページや広報みきや新聞、沿線ガイドを見ての申し込みが比較的多いが、それでも足りないので、直接の働きかけが必要だと考えている。各所

に DM を送っているが、それでも不十分で、悩んでいる。

委員：学校の立場として、芸術講座などは生徒や教師が受講し経験できればありがたい。事務局、作家共に多忙は承知しているが、例えば展覧会前の出張講座などを行えないか。その内容とスケジュールの情報を年度初めに学校側にいただければ、カリキュラムに講座を組込むことができる。団体で美術館に来館してのワークショップなどはバスなどの手配が困難で進めにくい。出張講座はその点がクリアできるし、生徒たちが事前の講座で興味を持てば、家庭で話して家族で来館する。小学校としては図工の専科が少なく指導方法の悩みも多いので、このような取組はその解決につながると思う。

事務局：美術館からの情報提供のタイミングはいつが適切か。

委員：3月までが適切だ。

事務局：豊地小学校の場合、美術を担当している音楽の教師から、美術指導の助力の相談があり、木版画の刷り体験と ING ひょうごのキーホルダー作りを提案した。アート・ティーン公募展の搬入時に来館した教師に、作家による出張指導が出来るとの働きかけを行ったことで、三木東中学校の教師から依頼された。このように直接当事者と相談することが有効だと思う。また、出張可能な講座の予定を提出することはできる。

委員：年度始めに教師に出張講座の予定を提示出来たら、新たに担当した教師でもカリキュラムを進める計画の中に組みやすくなり、展覧会前に展覧会の予定を生徒や教師に共有できると思う。

事務局：7月に公募するアート・ティーン公募展の情報は、本来もう少し早く出すべきところ、教師の担当の変更を考慮して、4月2週目くらいに届くように発信している。この公募展が毎年あることを承知している教師は生徒に作品制作を取組ませるが、新たな教師が担当する場合でも同様になるよう、工夫して学校に早めに情報共有する。

会長：こういった学校への事前の情報提供でそれぞれの学校がカリキュラムの中に美術館からの提案を組込むことが出来れば生徒の視野を広げる可能性を生むので、検討してほしい。

委員：今年で30回目になる CG アートコンテストの作品は、市役所のプロムナードと教育センターのホールで展示されているが、受賞作品を美術館に展示することは可能か。CG アートはこれまでこの美術館では展示が無かったジャンルなので、新たな入館者の獲得につながるのではないか。

会長：私は CG アートコンテストの審査員だが、作品の権利は教育センターにあるので、権利

的には美術館に展示することは問題がない。但し、生成 AI を使って作られたものをアートと言っているのかは議論中だ。また、作品を見ても生成 AI で作られているかどうかの判断が出来ない。加えて、美術館として、スケジュールやスペースの確保が可能かという問題もある。

事務局：企画展の中で CG アートコンテストの入賞作品を含めた展示は可能だと思う。

会長：今、計画している展示の中に一つのメニューとして組み入れるというやり方はいかがか。

事務局：唐突に組込むのは入賞作品にとってもよくないので、全体に合うような形で場を作ることが大事だ。

会長：今後の協議としたい。

-事務局報告-(3)その他

事務局：美術館の内装が傷んできている。スタッフの自力で出来る事から着手する考え方だ。まず、立体物を展示する台をペンキで塗り修復した。

副会長：美術館に訪れる多くの作家から美術館に関する意見を聞いているか。

事務局：美術館内の雰囲気などはいいいということだが、作家だけでなく一般の来館者にとっても場所が分かりにくく、行き来しにくいと言われる。

副会長：看板はついていたりするが、位置が高すぎたりして、視認性が悪い。わかりやすい位置に追加してほしい。

事務局：それだけ、分かりにくく行きにくくても来てくれるアート愛好家が集まるので来館者の質が高く雰囲気がいいとの声を聞く。

委員：私は鬼展が楽しみだ。多くの寺社が朽ち果てていくばかりの状況だ。鬼瓦なども、大切に保管されているのは一部で、地べたにほったらかしというようなことも多い。また、蓮花寺や伽耶院などでも、参拝者に傷つけられるリスクを恐れて公開していない仏像が多いが、公開していないので地域には知られていない。そういったところに光を当てる企画に期待している。

閉会 会長 副会長挨拶